

橋野郷土史研究会 第二回 七月二十九日

於橋公民館

◎研究題目 橋野名の由来と橋氏の活動

①橋野名の正史

・島見郷(古代) 下村(鎌倉時代) 三法郷(江戸時代)

◎明治三十二年町村制施行により 橋村となる(潮見城主橋氏の恩顧を記念して
ニ橋氏の正史

①初代橋諸兄³⁰ 敏達天皇五世子孫 ほんめ^{のうらみ}葛城王と叫んだ。臣籍に降下し聖武天
皇より橋姓を賜り名を諸兄と改めた。臣籍に降下後諸兄等まよつた三人そろつて

橋氏の将来を祀り^祀下参加(聖武天皇、光明皇后、元正上皇より御製を賜った

。元正上皇御製「橋は実さへ花さへその葉さへ枝に霜降れどいや常盤の木」と

②諸兄はその後官更に就職、最後は十数年も左大臣の要職に付いた

③諸兄は遺唐使より帰朝して吉備真備僧玄助^{げんぼう}を重用し、政治の改革と奈良都

づくりを成功した。退任して四才で死すの時は国葬を賜り正一位に任ぜられた

④奈良^(諸兄の長男)と奈良^(諸兄の長男)の改

①諸兄の死後藤原仲麻呂が左大臣になったが暴政が多かった(例皇太子道祖王の退位)

②奈良^(諸兄の長男)は仲麻呂を除くべく道祖王を奉じ、奉告したのが破水道祖王は戦死された

奈良^(諸兄の長男)は九州下向橋野橋崎に住む(道祖王の墓守り、トウサマ墓地)

※官道^(トウサマ)のトウサマ墓地(住民の尊敬)

③橋公業 橋下向後の橋氏の事業

①潮見城の築城、(城主の館、長島庄の事務所と武蔵庫、訓練場、武家屋敷)

②潮見神社の三宮制と改築

④島見郷の宗廟時代(島見社と呼ぶ) 天平八年(七三六)島見社創建

。祭神：イサナミコ、イサナミコト、イサナミコト 二柱

④改組と三宮制

。上宮：イサナミコト、イサナミコト、橋諸兄(三柱)

。中宮：軍神として 応神天皇、神功皇后、武内宿禰、橋奈良、橋公業、淡江女神

。下宮：淡江公村、牛島公茂、中村公光(三柱)

(天柱)

③ 梅宮神社

○ 諸兄の母美千代婦人は主人美奴王早生か早生、子育てのため皇室の命婦に就任した
 任務は皇皇用酒造りである。酒かづまく出来るよう酒解神すけがみを祭り参拜を欠かすな
 かつた。この梅宮神社の起源である。都が京都に移ると瑤珠天皇の皇后の祭業で
 梅宮神社は京都にうつされ梅宮神宮が完成した(橋嘉智子婦人は橋氏から始めて
 皇右に在りた人である)

○ 橋公業公は橋に下向する時京都の梅宮神宮に参拜し酒解神と壇林皇右の靈を
 いたたかれお神輿かみこでかつた。橋に下向され、片白の梅宮神社には右三神と橋に
 早くから下向してあられ奈良磨公を加えて三神である。酒造、絲結、子授、橋守
 護の三神徳がある。

④ 歴代潮見城の城主について

① 第十三代橋公勢はしらの 潮見城主十五代の中一番強大な勢力をふるった

② 原氏(鹿島)吉田氏(吉田)波多氏(北波多)白石氏(白石)等かう人質をとった

○ 武雄氏(武雄) ↓ 奥楯の奥家、勢力配面も広く潮見城の外に日政城ひさぎ(若木)日本城といふ
 の人質の中女性はやとてそれごとく子供が生まれ ↓ 「相統争い」の原因になった
 ○ 相統争い

○ 長男純明 ↓ 武雄氏に子供がなつたため武雄に養子に出す(武雄十八代城主)

○ 二男公政(吉田馬太夫の娘の子) ↓ 公政の乳母の生腹

三男公親(波多興信の娘の子) ↓ 公親は公親を第十四代城主にさめり

大永七年(一五二七年)三月十五日公勢公政公親三人けり「そと休徳の將公政の
 乳母公親の水を子之んとす ↓ こいを公勢公政が飲み死す

○ 城主の死を知つた武雄の純明日政城を攻撃し落城させる。潮見城も橋氏関係の
 各所はそれより、畷崎長島は武雄後藤氏が兼領する ↓ 文書

五第十五代波江公師なみの 武雄後藤氏の指揮のもと、潮見城に入城守備につく

① 有馬氏潮見城を攻撃す。波江公師公重兄弟協力して防戦するも落城す公重死

(約束の武雄後藤氏の救援なし)(永祿六年九月十三日)(永祿三年説あり)

② 波江公師波佐見に行き大村氏に任之岳山城をあすかり、千綿に隠去し生を終る

内参考一三

波江氏と大村

川公勢全勢のころ、肥前大村純伊、高木の有馬尚磨（在りかた）と戦い、破れ、松浦、口良島にのこり住む。純伊一大決心をして、お伊勢参りをし、勢刀（いけ）ばん田を期した。が、園錢がなす、園新に留められ、つた。そこに通りのつた。波江公勢は、お金を子之後日、援兵を向け、城をとり、もどす約束をした。後日約束に、より公勢は、大村純伊を助け、城をとり、もどすことを援助した。この援助に、感じた大村氏は、その後、橋氏との協力、を、公師を助け、たのである。

。今も大村史と橋史との関係は、いさく、残っている。

波佐見には、波江姓の人も多く、波江水神も、波佐見に祭られている。